

校長室だより(No.8)

令和3年6月9日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

「学びのあしあと 3年生 オオムラサキ」

指導員さんのお話



オオムラサキの幼虫の観察



オオムラサキの成虫の観察



皆さんご存じの国蝶「オオムラサキ」について3年生が学習しています。このオオムラサキが国蝶となったのは、国の法律や条例で規定されたものではなく、日本昆虫学会が選んだものであるといわれています。オオムラサキの成虫は年に1回だけ6から7月に見ることができ、8月にはいっても生き残った成虫を見かけることもあります。雑木林のクヌギ、コナラ、ニレ、クワ、ヤナギなどの樹液の出ているところに集まったり、クリ、クサギなどの花に蜜を吸うために来ていたりするところに出会います。幼虫の食樹は、学校にも多く植えられるようになったエノキ等です。卵から孵った幼虫は、夏から秋にかけてエノキの葉を食べて成長します。冬はいったん地面に降りて、エノキ等、食樹の根の間や根の周りの空洞内に溜まった落ち葉の中で冬を越します。春に活動を再開し、エノキ等の食樹に登って葉を食い、更に成長を続けます。6月には蛹になります。3年生は、丹波の森公苑の指導員さんにお世話になり、学校での座学の後、実際に丹波の森公苑の飼育ゲージで幼虫や蛹の観察をさせていただきました。蛹の状態でも、体を震わせることができることに多くの子どもたちが驚いていました。3年生の理科では、昆虫と植物のところで「身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。」ことを学習します。そのなかで「昆虫の育ち方には一定の順序があり、成虫の体は頭、胸及び腹からできていること。」を観察を通して学習することになっています。教室でもモンシロチョウを飼育して、その成長を観察しています。

丹波の森公苑は1996年に開苑しました。当時の河合雅雄名誉公苑長の提唱により、オオムラサキの食樹であるエノキ170本、クヌギ500本が植栽されました。2007年から丹波産オオムラサキの飼育が開始されたと聞いています。

丹波の森公苑ホームページ

「国蝶オオムラサキの舞う里山づくり」

ホームページ <https://www.tanba-mori.or.jp/project/oomurasaki/>

公苑駐車場東側の山沿いにオオムラサキを観察できるケージ(ハウス)が設置されています。

年間を通してオオムラサキのいろいろな姿が観察できるようになりました。今年度は、放蝶会などのイベントは実施されないそうですが、いつでも観察可能だそうです。

公苑では、指導員さんを中心に

- 1 オオムラサキ生息調査活動
 - 2 オオムラサキ飼育・繁殖活動
 - 3 オオムラサキ啓発活動(学校への出前授業、研修会・講座の開催)等
- が行われています。